

3-3 郊外市街地景観

(1) 郊外市街地景観の特性

北野田駅の周辺は、古くは集落地の周辺に農地が広がる田園地帯で、大正期に北野田駅が開設されると、昭和初期から大美野などで郊外住宅地開発が行われました。戦後には鉄道沿線を中心に市街化が進み、旧来の集落地を核として郊外の市街地が拡大していきました。

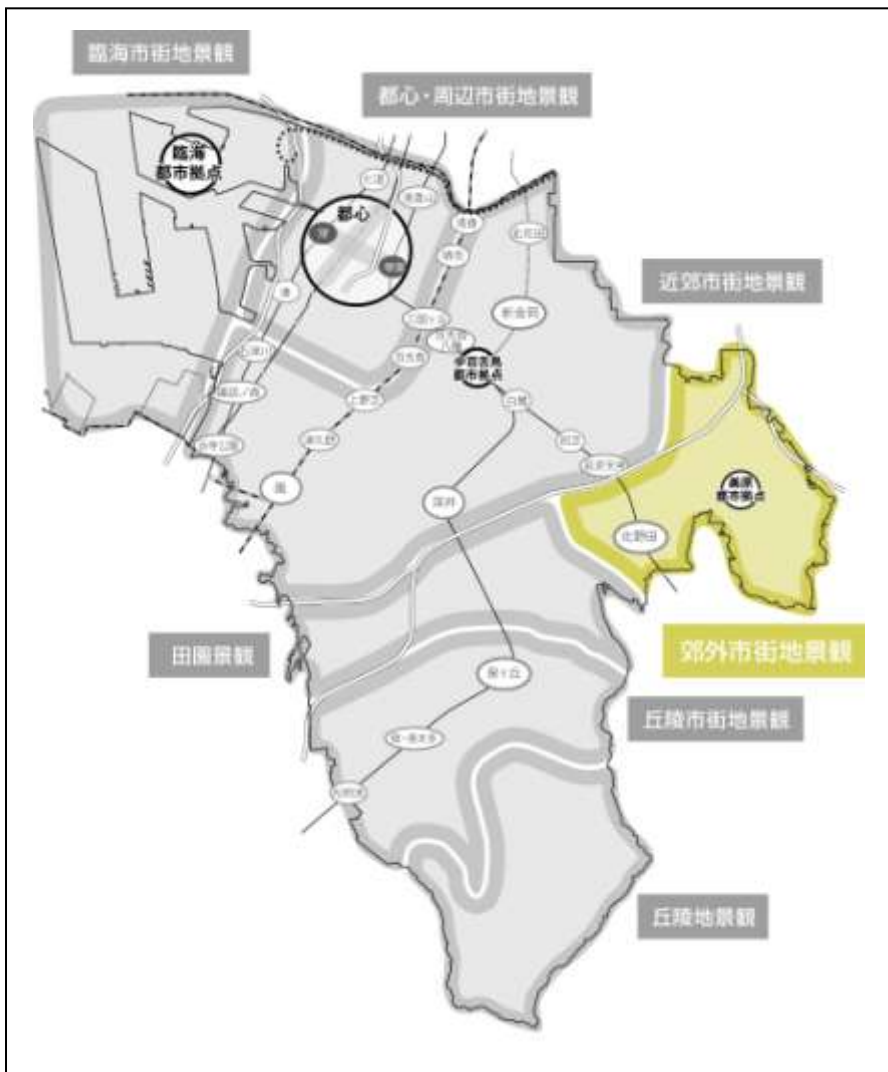
また、美原区域は、飛鳥時代の難波宮と飛鳥京を結ぶ日本最古の官道「飛鳥道」(後の竹内街道)に北端を接し、堺と大和を結ぶ交通の要衝として、繁栄してきました。区域内には、狭山池を水源とする東除川、西除川の両河川が南北に流れており、これらの河川に沿って農耕地が開けています。また、幹線道路の整備に伴い、既存の集落を核として市街化が進んでいます。



大美野の住宅地



美原に残る農村集落のまちなみ



1) 自然から見た景観特性

- ・南東の丘陵地から北西の平地に向けてなだらかに傾斜する比較的平坦な地形となっており、狭山池を水源とする東除川・西除川の両河川が南北に流れ、これらに沿って農地・ため池が分布しています。



舟渡池

2) 歴史・文化から見た景観特性

- ・日本最古の官道といわれる竹内街道に北端を接し、和泉と大和を結ぶ交通の要衝として、繁栄してきた地域です。戦前までは農地の中に集落地、ため池が点在する田園地帯が広がっていました。
- ・南海高野線の沿線では、ヨーロッパの郊外住宅地である田園都市を模した大美野住宅地が開発され、良好な住宅地景観が形成されました。



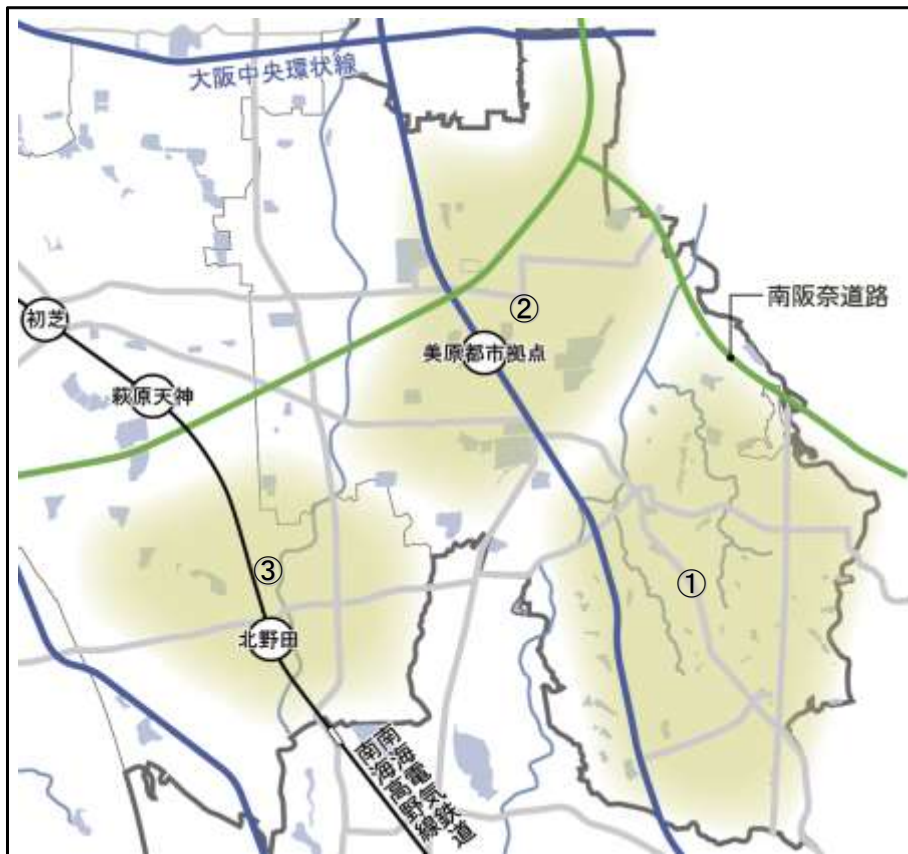
大美野の住宅地

3) 市街地形成の経緯から見た景観特性

- ・市街地では、鉄道の敷設や幹線道路の整備に伴い既存の集落を核として市街化が進みました。阪和自動車道や南阪奈道路の整備が進められ交通利便性も向上しており、丘陵部を切り開いて工業団地・戸建住宅地の造成が進められました。
- ・美原都市拠点においては区役所庁舎や多目的ホールなどからなる複合シビック施設の整備が進められています。



美原複合シビック施設



- ①平尾・さつき野・木材通周辺
- ②黒山・北余部・丹上周辺
- ③北野田・南野田・大美野周辺

ア) 拠点(駅前等)

○北野田駅周辺

- ・市街地再開発事業が実施され、駅前広場や商業施設・高層マンションが建設されたことにより、駅前の景観は大きく変貌を遂げました。
- ・付近には、戦前に開発された郊外住宅地である大美野が位置し、良好な住宅地景観を維持しています。



北野田駅前の再開発ビル

イ) 軸(道路・鉄道等)

○国道 309 号

- ・松原市から美原区を経て、富田林市へと接続する幹線道路で、周辺にはまとまった農地・河川などの田園景観が広がり、沿道には生活利便施設を中心とした立地が見られます。



国道 309 号

○泉大津美原線(松原泉大津線)・阪和自動車道

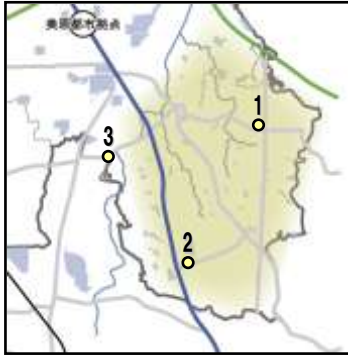
- ・阪和自動車道の高架とその下を走る泉大津美原線は、市域を東西に貫通しており、沿道には田畑などが広がり、一部では市街化されたり、あるいは建設資材置き場などに利用されている様子も見られます。

ウ) 地域別の景観

市街地形成の経緯から、概ね以下の3つの特徴的な地域に分類できます。

【①平尾・さつき野・木材通周辺】

- ・丘陵地において、建築協定を取り入れて計画的に開発されたさつき野住宅地では、緑豊かなまちなみが育まれてきました。
- ・大阪木材工場団地は、昭和39年に造成が開始されました。現在は約50社の事業所などが立地しており、比較的大規模な敷地が整然と区画割りされた中に工場が集積しています。
- ・国道309号沿いには沿道型の商業施設が建ち並び、にぎわいを感じる事ができる一方、無秩序な屋外広告物の掲出により景観が阻害されている事例も見られます。



1 緑豊かなさつき野住宅地



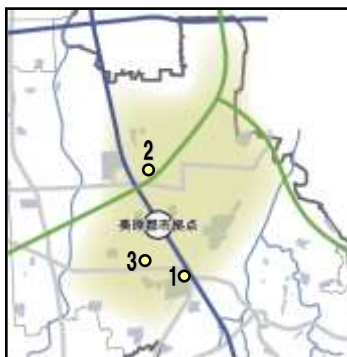
2 景観賞を受賞した大阪木材工場団地協同組合組合会館



3 菅生神社

【②黒山・北余部・丹上周辺】

- ・かつて河内鋳物師が居住していた地域で、田園地帯の中に黒姫山古墳、黒山地区の集落、社寺などの歴史景観が点在しています。
- ・美原都市拠点においては区役所庁舎や多目的ホールなどからなる複合シビック施設の整備が進められています。
- ・丹上には幹線道路沿道を中心に工場や事務所が立地しています。



1 舟渡池



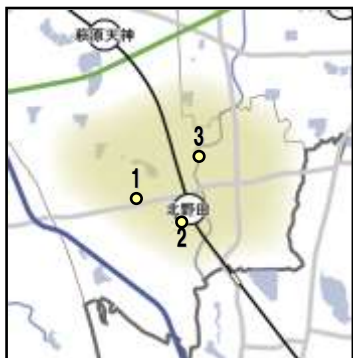
2 黒姫山古墳



3 黒山の集落のまちなみ

【③北野田・南野田・大美野周辺】

- ・北野田駅の西に位置する大美野は、昭和初期にヨーロッパの田園都市になぞらえて開発された地域で、計画的に良好な住宅地が形成され、集落周辺の農地の市街化が進みました。現在も、近代和風様式などの住宅と緑豊かなまちなみが維持されています。
- ・北野田駅前では、市街地再開発事業により駅前広場や大型商業施設などが整備され、隣接地にも高層マンションが建設されるなど、地域の顔として明るく様変わりしました。



1 大美野の住宅地



2 北野田駅前の再開発ビル



3 狭山池につながる西除川

(2) 郊外市街地景観の課題

郊外市街地は、北野田駅周辺を中心とする市街地と複合シビック施設の整備が進む美原都市拠点、農地など豊かな自然の中に点在する旧集落地・郊外住宅地から構成されています。農地・ため池や河川などの自然は貴重な景観資源であり、その保全に努める必要があります。

また大美野・さつき野などの郊外住宅地は、計画的に街区形成が進められたことから、現在においても緑豊かで整然とした住宅地景観が形成されており、地区の特性に応じて良好な景観の保全と適切な更新を図っていく必要があります。

さらに、幹線道路の整備が進み、沿道を中心に商業施設などの立地も見られるようになってきているため、周辺の田園景観との調和が求められます。

地域別の景観形成の課題としては以下が挙げられます。

- ・ 都市化が進展する中、農地や昔ながらの農村集落のまちなみの保全が課題となっています。
- ・ 美原都市拠点の整備においては、周辺の田園景観と調和を図りつつ、適切な施設などの誘導を図っていく必要があります。
- ・ 大美野などの郊外住宅地では、近代和風様式などの住宅や、緑の豊かなまちなみを維持していくことが課題です。
- ・ 幹線道路沿いでは沿道型の商業施設や屋外広告物などが、周辺の田園景観を阻害する要因となっている事例も見られます。

(3) 郊外市街地景観の方針

大美野、さつき野など計画的に開発された郊外住宅地や、昔ながらの農村集落のまちなみなどの良好な景観を保全しながらも、北野田駅前や美原都市拠点におけるいきいきとした暮らしや交流の場としての都市景観の創出を図るため、郊外市街地景観の目標を次のように定めます。

緑豊かな郊外住宅地景観及び田園と調和した集落地景観の保全

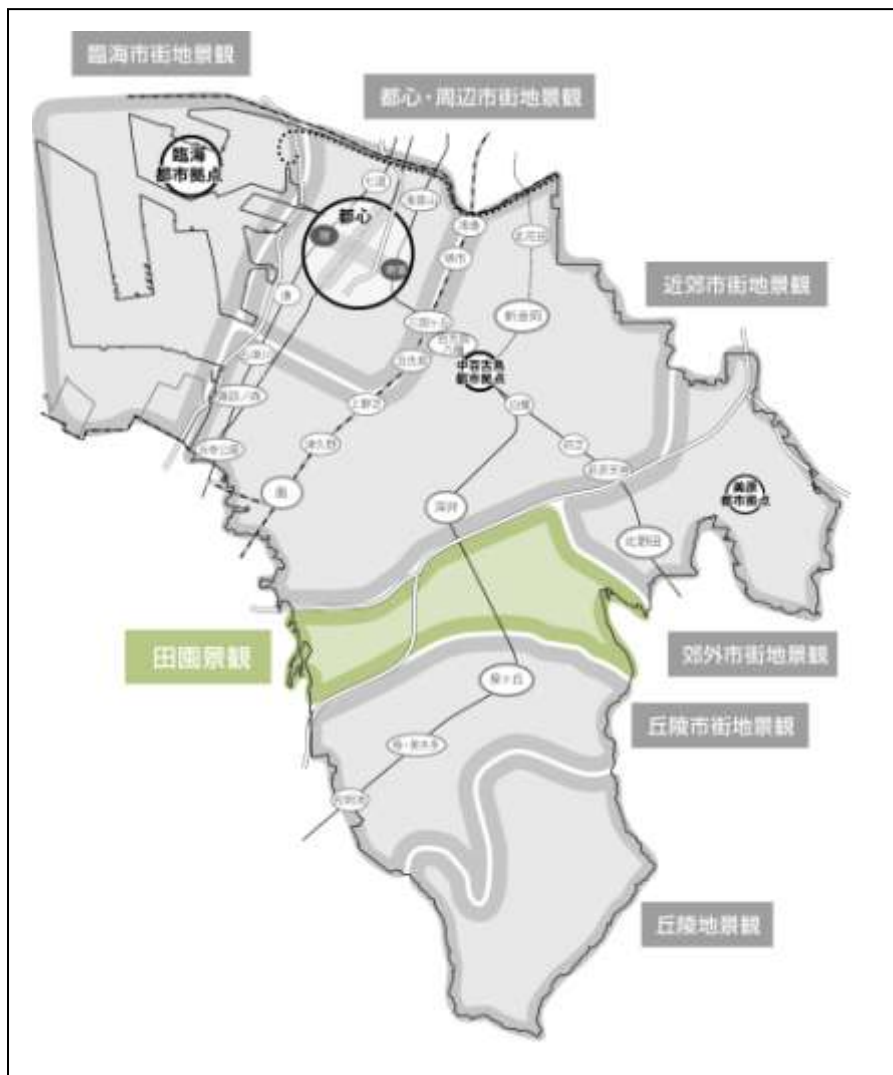
そして、この目標を実現するための方針を次のように定めます。

1. 良好な住環境が保たれている郊外住宅地とその周辺では、歴史ある住宅と緑豊かでゆとりあるまちなみの保全を図ります。
2. 集落地のまちなみや周辺の農地などの田園景観と調和した景観の形成をめざします。
3. 周辺環境との調和に留意しながら、地域に分布する田畑・ため池・河川、起伏ある地形といった特徴的な自然景観の保全と活用を図ります。
4. 幹線道路沿道においては、節度あるデザインにより、豊かな緑と調和した落ち着いた景観形成をめざします。
5. 美原都市拠点では、都市サービス機能を集積した美原区域のシンボルゾーンとして、周辺の良好な田園景観との調和を保ちつつ、にぎわいのある景観形成をめざします。

3-4 田園景観

(1) 田園景観の特性

この地域は、大半が市街化調整区域に指定されており、丘陵地の裾野に広がる自然豊かな田園景観が魅力です。



集落地の景観



緑豊かな田園景観



阿弥陀池

1) 自然から見た景観特性

- ・ 標高 30～100mのゆるやかな丘陵地形の谷間に河川が流れ、起伏に富んだ地形が形成されています。
- ・ 陶器川・前田川沿いを中心に樹林地が残っており、多様な生物が生息する貴重な自然空間を形成しています。また、その周辺には昔ながらの集落・田園景観が広がっています。



農地が広がる田園景観

2) 歴史・文化から見た景観特性

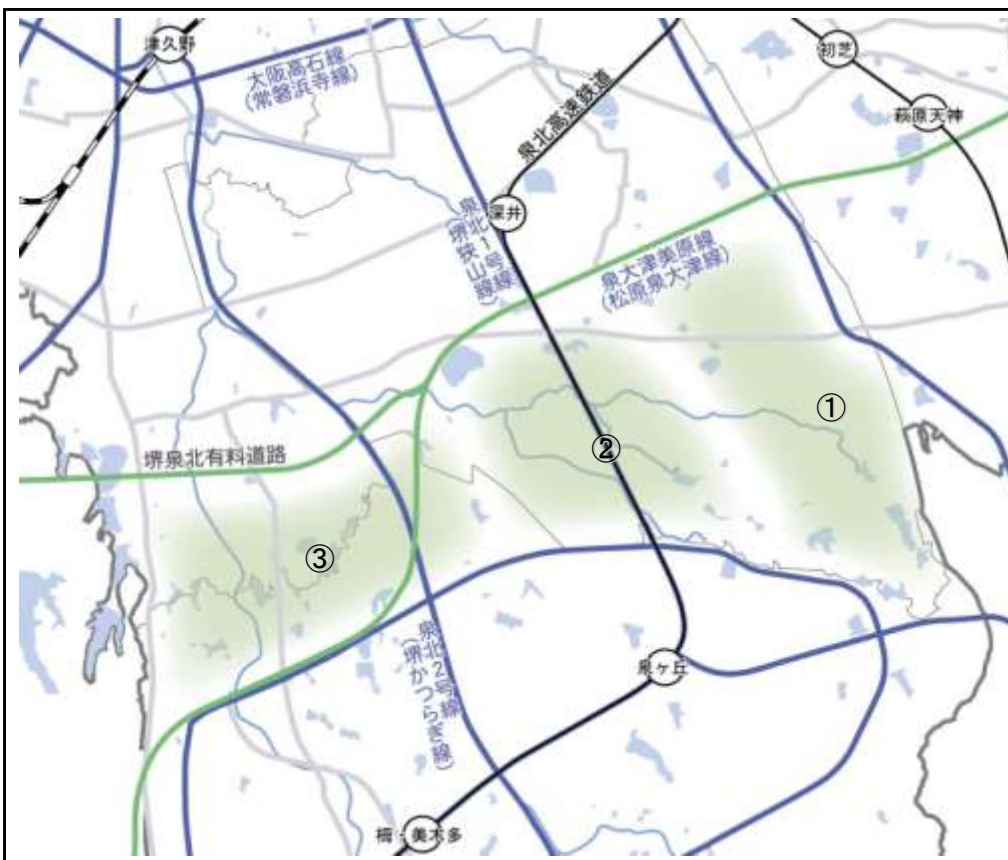
- ・ 古代には須恵器の一大生産地であり、現在も窯跡群の遺構が残っています。
- ・ 古くから河川やため池の水利を活かした農業が行われており、これが現在にも受け継がれています。
- ・ 西高野街道の沿道に集落が形成されており、現在でも街道沿いには立派な造りの農家住宅が残されています。



西高野街道

3) 市街地形成の経緯から見た景観特性

- ・ 大半が市街化調整区域に指定されており、昔ながらの農村・田園景観が残っています。



① 福田・陶器北・辻之周辺

③ 太平寺・菱木・大庭寺周辺

② 平井・田園・東山周辺

ア) 軸(道路・鉄道等)

○泉北1号線(堺狭山線)・泉北高速鉄道

- ・石津方面から深井を経て、光明池・和泉中央方面へと続く主要な幹線で、平井や田園周辺では一部で集落周辺の農地・空地等の市街化が進んでいます。



泉北1号線沿道

○泉大津美原線(松原泉大津線)・阪和自動車道

- ・阪和自動車道の高架とその下を走る泉大津美原線は、市域を東西に貫通しており、沿道には田畑などが広がり、一部では市街化されたり、あるいは建設資材置き場などに利用されている様子も見られます。



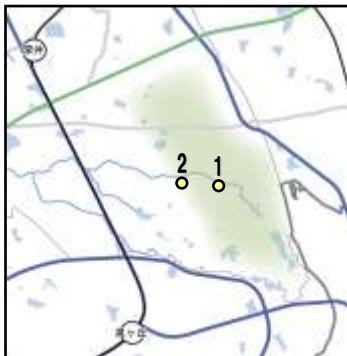
泉大津美原線

イ) 地域別の景観

市街地形成の経緯から、概ね以下の3つの特徴的な地域に分類できます。

【①福田・陶器北・辻之周辺】

- ・陶器川によりできた段丘を活かし、古墳時代は須恵器の一大生産地でした。上流に残る陶器窯跡群は焼き物のルーツであり、貴重な歴史文化景観です。
- ・現在は陶器川の両側に棚田のある田園風景がなだらかに広がり、川の上流にある阿弥陀池が深い水をたたえています。また、午池周辺には、棚田のある田園風景が広がり、ため池の改修工事をきっかけに里山を意識した景観整備が行われています。
- ・福田では西高野街道の沿道に歴史を感じさせるまちなみが見られます。



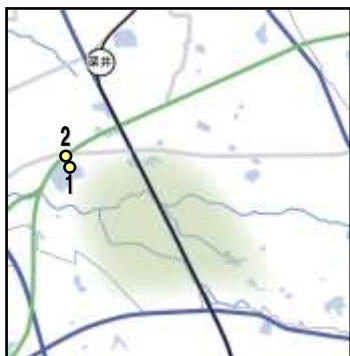
1 児山(こやま)家住宅



2 陶器川

【②平井・田園・東山周辺】

- ・集落周辺の田畑が、徐々に住宅や工場・物流などの事業所になるなど、個別の土地利用が進みつつあります。
- ・原池公園は、水辺を活かした総合運動場として、体育館をはじめとする施設整備が進んでいます。



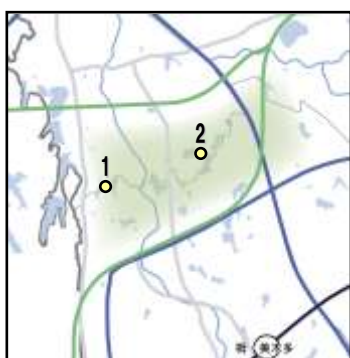
1 原池公園



2 泉大津美原線

【③太平寺・菱木・大庭寺周辺】

- ・和田川沿いに広がる田園地域で、ため池が数多く残っています。
- ・谷筋の通り沿いに、工場や自衛隊訓練所などが立地しています。



1 山田新池



2 集落地

(2) 田園景観の課題

この地域では、丘陵地にかけて広がる素朴な田園景観の保全や伝統的な集落地の景観形成が課題です。

また、幹線道路沿道ではさまざまな土地利用が混在し、乱雑な印象を与えるものもあるため、建築行為を伴わない都市的な土地利用の景観上の調和も課題となります。

(3) 田園景観の方針

素朴で美しい田園景観を、貴重な自然・農業生産空間として、伝統的な集落や街道の景観とともに保全を図るため、田園景観形成の目標を次のように定めます。

丘陵地に沿ってなだらかに広がる田園景観の保全

そして、この目標を実現するための方針を次のように定めます。

1. 起伏のある地形、田畑、ため池、河川などからなる貴重な自然・農業生産空間としての田園景観の一体的な保全を図ります。
2. 幹線道路沿道や新たに市街化が進みつつある地域では、集落景観と調和した落ち着いた落ち着いた景観形成をめざします。
3. 背後の丘陵地・山なみへの見通しや周辺の集落景観との調和に配慮し、農地の潤いを活かした伝統的な農村景観の保全を図ります。
4. 伝統的な集落や街道沿いに位置する歴史資源の保全を図ります。

3-5 丘陵市街地景観

(1) 丘陵市街地景観の特性

丘陵市街地は、泉北ニュータウンとその谷あいからなる地域です。

泉北ニュータウンは、高度経済成長期の住宅需要に応えるため、既存の樹林やため池を残すなど自然の地形を活かしつつ、景観に配慮しながら新住宅市街地開発事業によって整備された大規模な計画的市街地です。道路が整備され整然とした街区に、一戸建てや集合住宅、商業施設や公共施設が計画的に配置され、ゆとりのある空間が形づくられています。

谷あいの地域には、石津川や和田川に沿って、丘陵地の斜面林、棚田、段々畑などの里山景観が残っています。



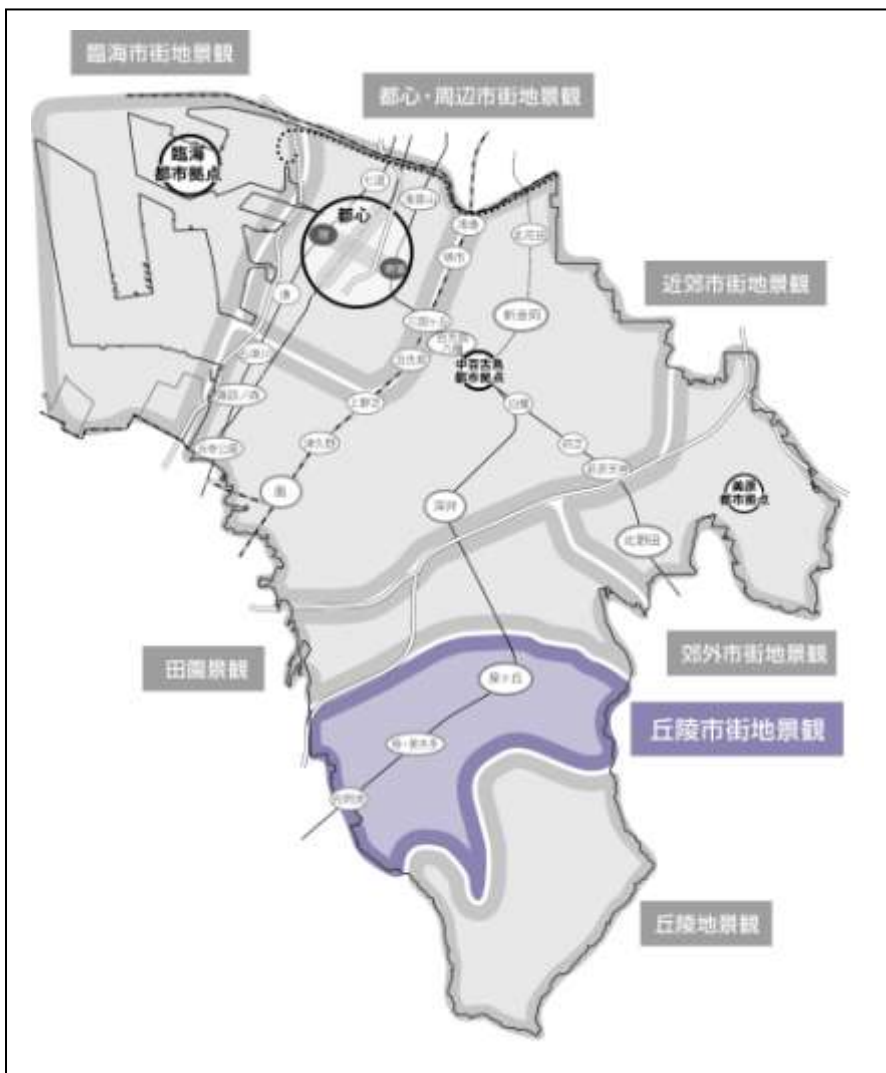
泉北ニュータウン



泉北ニュータウンの谷あい



自然と一体となった集合住宅



1) 自然から見た景観特性

- ・ 標高 30～100mの丘陵地形で、尾根部分に泉北ニュータウンが立地し、谷間の河川沿いに農地や集落が分布しています。谷間を中心に美しい里山景観が残り、和田川・石津川沿いには里山と一体となった農地・集落景観が一望できます。
- ・ 泉北ニュータウン内においても豊かな自然を残した開発がなされており、各種公園に加えて、泉ヶ丘緑地などをはじめとする緑地や緑道が市民の憩いの空間となっているほか、斜面地や沿道の緑が一体となって、緑に包まれた景観を創り出しています。



農地が広がる田園景観



ニュータウンの緑地

2) 歴史・文化から見た景観特性

- ・ 昭和 30 年代までは、和田川・石津川の流れる谷間に農地が広がり、集落地が点在している山間部の農村地帯でした。今でも谷間の田園景観は当時の面影をしのばせます。区域内には櫻井神社をはじめとする歴史的な景観資源が点在しています。



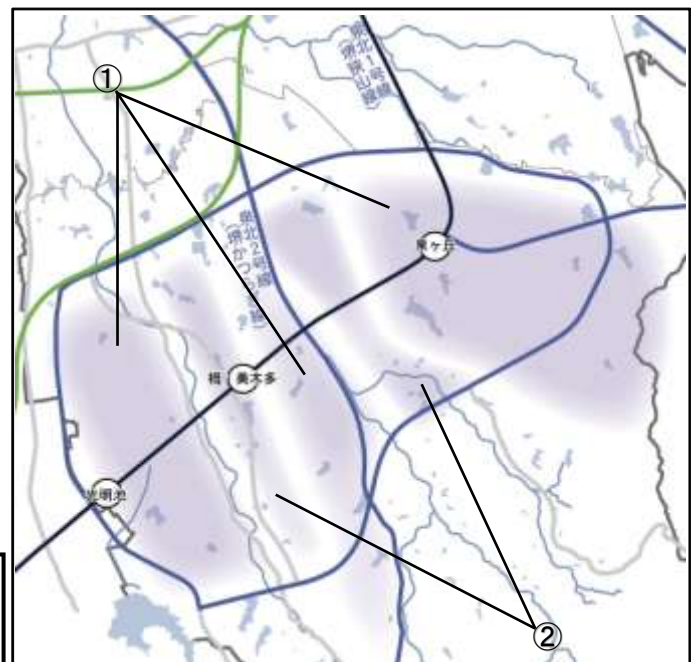
櫻井神社

3) 市街地形成の経緯から見た景観特性

- ・ 市街地では、昭和 40 年から 58 年にかけて新住宅市街地開発事業による泉北ニュータウンの建設が進められました。昭和 46 年に泉北高速鉄道が泉ヶ丘まで、昭和 52 年には光明池まで整備され、さらに平成 5 年には阪和自動車の堺インターチェンジ～岸和田和泉インターチェンジ間が開通し、市街地の基盤はほぼ整いました。
- ・ 泉北高速鉄道の各駅前には、生活サービスを支える駅前の商業・業務集積地が形成されるとともに、公的住宅や戸建住宅を中心とした計画的な住宅地の建設が行われました。
- ・ 泉北ニュータウンで供給された住宅は、全体戸数の3/4が公的賃貸住宅や分譲マンションなどの集合住宅で、1/4が戸建住宅やタウンハウスなどの低層住宅となっています。
- ・ 泉北ニュータウンでは、自然の地形や既存のため池などを活かした眺望景観の創出に配慮して計画された集合住宅も見られます。



泉北ニュータウンの交通動脈



① 泉北ニュータウン

② 谷あいの集落地

ア) 拠点(駅前等)

○泉ヶ丘駅周辺

- ・ 地区センターとして、大型商業施設が集積するとともに、各種バス路線の結節点ともなっており、多くの人が行き交うにぎわいの拠点となっています。
- ・ 建築物の老朽化が進んでおり、駅周辺では公的住宅などの更新の動きが見られます。



泉ヶ丘地区センター

○榎・美木多駅周辺

- ・ 南区役所のほか、榎文化会館や南堺警察署などの公共公益施設が立地しています。
- ・ 駅周辺の商業施設などは建物の老朽化や周辺の人口減少などにより商業集積地としての競争力・集客力が低下してきており、テナントなどの更新の動きがみられます。



榎・美木多駅周辺の商業施設

○光明池駅周辺

- ・ 業務施設やレクリエーション、商業施設などの立地が進み、にぎわいのある景観が形成されています。



光明池駅周辺の商業施設

イ) 軸(道路・鉄道等)

○泉北1号線(堺狭山線)・泉北高速鉄道

- ・ 泉北高速鉄道とそれに沿って走る泉北1号線は泉北ニュータウンの各拠点を結ぶ主要な幹線で、沿道には中高層住宅が連なって立地し、広幅員の道路が広がりのある景観を創り出しています。



泉北1号線

○泉北2号線(堺かつらぎ線)

- ・ 石津川の谷筋に沿って南北に走る幹線道路で、沿道型の商業施設の立地が見られます。
- ・ 背後地には里山の景観が広がっていますが、沿道の資材・廃材などの置き場が、景観を阻害している事例も見られます。



泉北2号線

○堺泉北環状線

- ・ 泉北ニュータウンの外周を取り巻く道路で、戸建て住宅地などの内部を通過しています。一部の区間では住宅地との関係に配慮したゆとりある空間構成となっており、緩衝緑地帯も十分に確保されています。



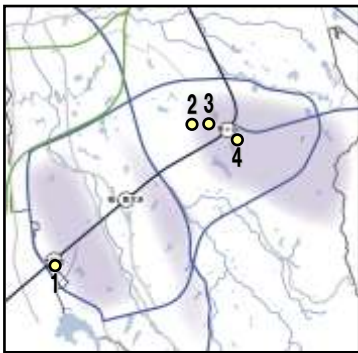
堺泉北環状線

ウ) 地域別の景観

市街地形成の経緯から、概ね以下の2つの特徴的な地域に分類できます。

【①泉北ニュータウン】

- ・泉北ニュータウンでは、整然とした街区に、商業施設、公共施設、戸建て住宅や集合住宅が用途を区分して立地しており、豊かに育った緑がその合間をつないでいます。特に公園や街路樹の植栽が立派に育ち、まちの成熟を感じさせます。
- ・戸建て住宅を主体とする良好な住環境を維持・保全するため、地区計画や建築協定が活用されています。



1 泉北ニュータウン



2 荒山公園



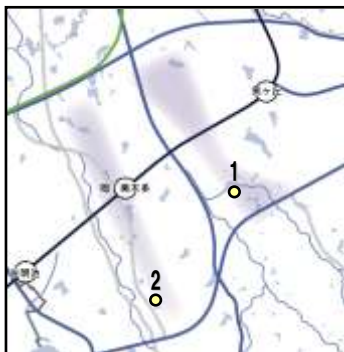
3 緑豊かな住宅地



4 公共施設(ビッグバン)

【②谷あいの集落地】

- ・谷あいの集落地では、川筋の道沿いに集落や事業所、谷あい・丘陵地斜面の棚田や段々畑などが一体となった景観が見られます。
- ・櫻井神社や美多弥神社の社寺林など、貴重な歴史・文化景観が見られます。



1 櫻井神社



2 谷あいの集落と畑

(2) 丘陵市街地景観の課題

丘陵市街地は丘陵地に位置する泉北ニュータウンと、その谷あいの地域から構成されており、農地・ため池や山林・河川などの自然は貴重な景観資源であり、その保全に努める必要があります。

また、泉北ニュータウンは計画的に街区形成が進められたことから、現在においても緑豊かで整然とした住宅地景観が形成されており、地区の特性に応じて良好な景観の保全と適切な更新を図っていく必要があります。

さらに、幹線道路沿道を中心に商業施設などの立地も見られるようになっているため、周辺の田園景観との調和が求められます。

地域別の景観形成の課題としては以下が挙げられます。

- ・ 泉北ニュータウンの緑豊かな環境を保ちつつ、駅前や公的住宅団地などでは建物の更新にあたって、にぎわいのある景観を形成していくことが中長期的な課題となっています。
- ・ 多様な自然・歴史景観により形成される美しい谷あいの景観、まとまった農地が残る田園の景観を保全していく必要があります。
- ・ 幹線道路沿いでは沿道型の商業施設や屋外広告物などが、周辺の田園景観を阻害する要因となっている事例も見られます。

(3) 丘陵市街地景観の方針

泉北ニュータウンでは計画的に開発された郊外住宅地の成熟した良好な景観を保全し、丘陵の谷あいの地域や農地・ため池が広がる田園地域では、自然と集落の風景が調和した美しい景観を保全するため、丘陵市街地景観の目標を次のように定めます。

活力を感じる景観形成と緑豊かな郊外住宅地景観及び

周辺の自然、田園景観の保全

そして、この目標を実現するための方針を次のように定めます。

6. 泉北ニュータウンでは緑豊かな住宅地景観を保全しつつ、拠点となる駅前や近隣センターにおいては、明るく活力を感じる顔となるような景観形成をめざします。
7. 泉北ニュータウンの公的住宅や公共施設の更新にあたっては、適正な土地利用の誘導とあわせて魅力的な景観形成をめざします。
8. 幹線道路沿道においては、節度あるデザインにより、豊かな緑と調和した落ち着いた景観形成をめざします。
9. 谷筋の集落地では、農地や河川・ため池などの自然資源と一体となった潤い豊かな景観形成をめざします。
10. 農地、河川・ため池や丘陵地の斜面樹林などの自然景観や、社寺などの貴重な歴史資源の保全を図ります。